

5 月 教 育 委 員 会 会 議 会 議 録

日時：令和4年5月26日 午後2時
 場所：山口県教育庁教育委員会室

教 育 長	<p>それでは、ただいまより令和4年5月の教育委員会会議を開催いたします。</p> <p>なお、穎原委員は所用のため欠席されていますので報告いたします。最初に本日の署名委員の指名を行います。佐野委員と小崎委員、よろしくお願いします。</p> <p>それでは本日の議題の審議に入る前に、審議の公開の可否について決定したいと思います。本日の議題のうち、議案第2号、議案第3号、議案第4号は、教育行政の公正又は円滑な運営に支障を生じるおそれがあることから、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項」の規定に基づき、非公開とすることが望ましいと考えますが、いかがでしょうか。</p>
全 委 員	承 認
教 育 長	<p>それでは、議案第2号、議案第3号、議案第4号については非公開で審議することといたします。</p> <p>それでは、議案の審議に入りたいと思います。</p> <p>議案第1号について、教育政策課から説明をお願いします。</p>
教育政策課長	<p>議案第1号、山口県教育委員会表彰規則による表彰について、ご説明いたします。議案書の、2ページを御覧ください。4月13日に岩国市立中洋小学校の森本理江教諭が早期退職されました。</p> <p>これに伴いまして、表彰規則による「永年その職務に精励した者」であるとして、岩国市教育委員会から教育功労者表彰の内申がございました。通常退職に伴う表彰に係る永年精勤者は勤務年数が25年以上の者となっております。内申の状況と併せまして、表彰の基準を満たすものでございました。急な退職に対応し、これまでのご功績に報いるためにも、速やかに表彰する必要がございましたことから、「教育長に対する事務の委任等に関する規則」第4条第1項の規定に基づき、教育長が臨時に代理して、4月13日付けで森本理江教諭を表彰いたしましたので、ご報告し、承認をいただきたく、お諮り申し上げます。</p>
教 育 長	<p>ただいま教育政策課から議案第1号について説明がありましたが、意見、質問はありますか。</p> <p>議案第1号について、承認することとしてよろしいですか。</p>
全 委 員	承 認
教 育 長	議案第1号を承認いたします。

教 育 長	<p>それでは、報告事項に入りたいと思います。 報告事項1について、教職員課から説明をお願いします。</p>
教 職 員 課 長	<p>今年度実施をいたします、令和5年度山口県公立学校教員採用候補者選考試験についてです。資料の3ページを御覧ください。</p> <p>教員採用試験の概要については、3月17日に実施大綱として発表したところですが、この度、5月11日に、採用見込者数を含めた試験の詳細な内容を、実施要項として発表しました。まず、1の(1)の選考区分及び志願区分(校種等)についてですが、アの一般選考からクの看護科教諭特別選考までの8つの区分で実施します。</p> <p>次のページ(2)の教科(科目等)及び採用見込者数についてですが、全体で370人程度としており、昨年度の370人程度と同数となっています。校種別、教科(科目等)別の内訳については、表にお示ししているとおりです。</p> <p>次の5ページを御覧ください。2の出願受付期間は、要項発表後の5月12日(木)から受け付けを開始しており、5月31日(火)までとしています。3の試験期日につきましては、第一次試験を7月9日(土)、10日(日)の2日間、第二次試験を、8月20日(土)、21日(日)の2日間で実施することとしています。小学校の個人面接については、21日(日)から23日(火)までのうち指定する1日で実施します。4の試験会場については、一次試験は山口会場の県内3高校、関西会場のCIVI(シーヴィ)研修センター新大阪(北)、東京会場のNATULUCK(ナチュラック)飯田橋東口駅前店で実施し、二次試験は県内4高校で実施します。5の試験内容は、お示ししているとおりです。また、6の試験結果の発表については、一次は8月3日(水)、二次は10月4日(火)としています。</p> <p>次に、7の試験の主な変更点についてですが、お示ししていますように、6項目あります。1点目は「受験年齢の上限の引上げ」、2点目は「高等学校及び特別支援学校高等部の情報の出願要件の見直し」、3点目は「社会人特別選考(高等学校情報)における特別免許状の活用」、4点目は「スポーツ・芸術特別選考におけるスポーツ分野の対象種目の見直し」、5点目は「スポーツ・芸術特別選考における特別免許状の活用」、6点目は「選考に当たっての考慮事項の追加」です。8の実施要項の請求等については、お示ししているとおりです。9のその他については、新型コロナウイルス感染症拡大防止等のため、今後、試験実施に関する変更が生じる場合は、教職員課のウェブページに内容を掲載するとともに、出願の際に登録していただく緊急連絡メールにより周知することとしています。また、感染症拡大防止の観点から過去2年間中止としていた説明会についてですが、今年度は、5月12日(木)から21日(土)の間で、オンラインを中心とした説明会を複数回実施しました。令和5年度試験の変更点等について周知するとともに、現職教員から試験に対する心構えや学校現場での経験などを熱く語っていただきました。以上、御報告申し上げます。</p>
教 育 長	<p>ただいま教職員課から報告事項1について説明がありましたが、意見、質問はありますか。</p>

小 崎 委 員	説明会の中で質疑応答などがあると思うのですが、例えばどういう質問がでたのでしょうか。
教 職 員 課 長	実際に事例発表の先生が学校の様子とかを話しますので、そのことに関しての質問であるとか、あとは合格した後の配置についてなど、そういうような質問があったと思います。
小 崎 委 員	結構たくさん、活発にあったのでしょうか。
教 職 員 課 長	割と活発にありました。
佐 野 委 員	主な変更点の中に、社会人特別選考、高等学校情報における、特別免許状の活用というところがあるんですけども、たぶん多様な、通常の方とは違う力を持った方を採用したいというのがあるんだと思うんですけども、例えば具体的に、どんな感じの方を採用しようとしているのか。
教 職 員 課 長	社会人特別選考という形で、高等学校情報については、民間企業等での経験を有するという事で、その専門性の高さを学校現場に活かしていただけたと考えています。
教 育 長	具体的には、情報関係、NTTとかいろいろあるけど、そういったところの方でしょうか。
教 職 員 課 長	企業としては、今教育長のおっしゃられた会社であるとか、インターネット・Web会社、ソフトウェア会社、ハードウェア会社、研究機関等も含めて考えています。職種としてはシステムエンジニアであるとか、プログラマーとか、そういった職種を考えています。
教 育 長	それでは、報告事項1については、以上のとおりとします。 続いて、報告事項2について、義務教育課から説明をお願いします。
義務教育課長	4月に実施されました全国学力・学習状況調査について、概要を御報告いたします。お手元に、本年度の調査問題をお届けしていますが、ここでは、別冊の資料を使って、御説明いたします。まず、8ページを御覧ください。今年度は、4月19日（火）に、小学校第6学年と中学校第3学年を対象に実施されました。3年ぶりとなる、4月中旬の実施となりました。実施教科は、小学校が国語、算数、理科、中学校が国語、数学、理科です。お手持ちの資料には記載しておりませんが、前回、令和3年度からの変更点としては、4年ぶりとなる理科の実施の他、一部の学校で児童生徒質問紙調査のオンライン実施が導入されました。本県では、小・中学校合わせて68校が4月19日から4月26日の間で、実施されました。調査内容は、全体として、学習指導要領の理念・目標・内容に基づき、前の学年までに十分身に付け、活用できるようにしておくべきと考えられる内容が、各領域からバランスよく出題されています。本県では、小・中学校合わせて40

4校、約2万2千人の児童生徒が調査を実施したところです。大きなトラブルなく調査を終えることができております。調査結果等につきましては、7月末頃、各教育委員会及び学校に対して文部科学省から提供される予定です。

それでは、問題の概要について御説明いたします。まず、教科に関する調査です。資料9ページを御覧ください。小学校国語です。地域のためにできることについて話し合う場面や「6年生としてがんばりたいこと」を書く場面など、日常生活の場面と関連付けられた設定が示されています。また、資料では特徴的な問題例として、物語から伝わってくることをまとめる問題をお示ししておりますが、その他に、話し合いで出た意見を基に自分の考えをまとめる問題や、文章全体の構成や展開などに着目して文章のよいところを見付ける問題などが出題されました。

資料11ページは、小学校算数です。特徴的な問題例として、プログラムをつかって図形をかくための命令を正しく書き直すという場面設定の問題をお示ししています。この大問では、図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質について問う問題等が出題されました。また、割合を使ってジュースに含まれる果汁の量を算出する問題、お楽しみ会のアンケート調査の結果について、表やグラフを使って考察する問題なども出題されました。

資料13ページは、小学校理科です。身の回りの生物の観察を基に、昆虫の成長について答える問題や、季節や天気、時間帯における気温の違いについて、表やグラフから必要な情報を読み取り、答える問題が出題されました。また、提示された情報を、複数の視点で分析して解釈し、自分の考えを問う問題が出題されました。資料では、特徴的な問題例として、問題解決に取り組む学習過程を取り上げ、自分の予想が正しいかを確かめる実験方法を考え、実験の過程で生じた不具合に対して、実験方法を見直す問題をお示ししています。

次は中学校国語です。15ページを御覧ください。文書作成ソフトの利用を想定した場面や、最近気になったことについてスピーチをする場面など、日常生活の場面と関連付けられた設定が示されています。特徴的な問題例として、自分の考えが伝わる文章になるように、Webページにある資料を引用して文章を書く問題をお示ししています。また、自分の考えを分かりやすく伝えるために、話し方の工夫を考える問題や、実際の学習場面や学校生活での活用を想定した問題等が出題されました。

資料17ページは、中学校数学です。2つの偶数の和の性質について文字式を用いて考察する問題や、与えられた図形の性質について統合的・発展的に考察する問題が出題されました。特徴的な問題例として、「データの活用」の領域で、ヒストグラムの特徴を比較して説明する問題や、箱ひげ図を使って考察した後に事象に即して解釈する問題をお示ししております。

資料19ページは、中学校理科です。タブレット型端末を取り上げるなど、多くの問題が日常生活の場面と関連付けられるとともに、科学的に探究する場面から出題されました。特徴的な問題例として、水の状態変化についてのポスター発表を基にして、その発表の考察に対する根拠の不十分さを示す問題をお示ししています。それ以外にも、

<p>教 育 長</p>	<p>天気図と実際の空模様を関連付けて考える問題や、モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験の計画について問う問題などが出題されました。教科に関する問題については以上です。</p> <p>続いて、質問紙調査について、21ページを御覧ください。まず、児童生徒に対する質問紙調査につきましては、令和3年度の実施と同様に、小学校と中学校で文言等、多少の表現のちがいはあるものの、同一の質問内容、質問数となりました。また、追加された質問の例として、SNSや動画視聴などの使用状況、設定された場面におけるICT機器の使用状況、理科に関する意識に関する質問等がありました。</p> <p>学校に対する調査につきましては、22ページを御覧ください。小学校と中学校で文言等、多少の表現のちがいはあるものの、同一の質問内容となりました。設問数は1割程度減っているものの、追加された質問として、ICTを活用した校務の軽減、理科の指導方法、ICTを活用した学習状況等が挙げられます。昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響に関する項目がありました。以上で、今年度の全国学力・学習状況調査についての報告を終わります。</p> <p>ただいま義務教育課から報告事項2について説明がありましたが、意見、質問はありますか。</p>
<p>木 阪 委 員</p>	<p>昨年この席におりませんでしたので教えてほしいのですが、試験の内容をざっと見る限りですね、おそらくこの2年3年ぶりに開催されたということと言われましたけども、2019年新型コロナウイルスが蔓延する前の出題傾向というのは、随分と色々なその、世の中の情勢の変化も踏まえた内容になっているとすごく感じるのですが、実際にそんな感じなのか、初めから考えさせるなというような出題傾向なのか、そのところをちょっとざっくり教えて頂きたいです。</p>
<p>義務教育課長</p>	<p>中身につきましては、先ほど申したとおり、学習指導要領の理念を目標内容に基づいてつくられているとございますが、以前は、知識に関する問題、活用に関する問題になっていまして、問題数も多くなっていまして、ここ数年で問題を狭めて指定時間外内にできるような形で問題数がつくられていることと、先ほど言いました様に、しっかり読み問いて、自分の考えをまとめるような問題というのがここ数年で多くなってきている状況です。以上でございます。</p>
<p>小 崎 委 員</p>	<p>理科の問題が4年ぶりということですが、なぜ理科の問題になったんでしょうか。</p>
<p>義務教育課長</p>	<p>理科の問題につきましては、文部科学省の方から3年に一度の開催という風になっていまして、4年ぶりというのは、本来であれば昨年度やる予定だったのが昨年度コロナの関係でやらないということで、今年度にずれ込んで4年ぶりということになっています。ちなみに来年度につきましては英語・外国語をそれが、これも3年に一度ということで、行う予定になっております。</p>

小 崎 委 員	なぜ理科なんですか。社会とかじゃなくて理科が出題されるのは何か理由があるのでしょうか。
義務教育課長	問題の傾向にもありますとおりですね、理科の問題でありますと、日常の場面、非常に偏りがあるようなので、それから実験とかですね、そのような物を使ってですね、自分の考えをまとめるというようなことで、現在全国で課題になっている所の子どもたちの様子が見えるというところから理科という風になっています。
審 議 監	補足です。国際的な調査によると、理科とか数学とかっていうような事がかなり重要視されており、また、理科離れという課題もありまして、理科を小さい時からやっというようにしています。先ほどコロナの話がありました。コロナ禍で実際実験をするという場面がかなり止まっている、これはあってはならない。そうしたことをちゃんと復活させてきちんとやらせましようっていうことで、問題の中でも実験の場면을大量に取り入れた。そんな風なことを先ほどの課長の話につけ加えさせていただきます。
和 泉 委 員	問題を拝見してスマート農業とプログラムとかデータ活用、新しい学習指導要領や最近の状況に沿ったところもございしますが、結果が7月末ごろにでるということで、ぜひ分析をお願いしたいというところなんです。今年度自体の分析もそうなんですけど、前年度もその前もそうでしょうけども、色々課題があってそれが毎年こういうふうになってあるということがありまして、そのへんの変化を含めて、山口県の子どもたちの学力の推移を併せて分析していただくと幸いです。
佐 野 委 員	自分がどの位の習熟度になっているかっていうのを客観的に確認する貴重な機会だと思いますし、今ああいう風にデータが見えるというのもすごく貴重な機会だと思います。この先、指導方法をどのようにしていくとかそういう時も考える基本データになるんじゃないかなと思うので、そのあたりしっかりと活用いただきたいなと思いますし、最近ではEBPMという、なにかカタカナで、エビデンスを基本にしてそういう政策を決定していくというのが割と行われているみたいなので、推奨されているみたいなので、そういう形もいいと思いますし、そういった分析をして各学校にフィードバックしていくところというのは何かこう今からやっていく予定はあるんですか。
義務教育課長	今言われたとおり分析については、各学校の方にお教えして今から本県の指導主事、それから市町の教育委員会の指導主事等を通じてその情報をお渡しして、積極的に校内研修などに入って一緒に今後の授業改善、学力の向上に向けて進めていきたいという風に思っております。
佐 野 委 員	ぜひ、和泉先生も言われたように、例年の動きとかも比較しながら効果的に活用していただければなと感じております。よろしくお願いたします。

教 育 長	<p>それでは、報告事項2については、以上のとおりとします。</p> <p>続いて、報告事項3、報告事項4について、まとめて高校教育課から説明をお願いします。</p>
高校教育課長	<p>それでは、「令和4年3月新規高等学校等卒業者の就職状況等について」御報告します。議案冊子23ページをお開きください。</p> <p>御覧いただいている「求人・求職・就職状況」は、山口労働局から発表された3月末現在のデータを基に作成した一覧表であります。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、高校生の就職スケジュールが1か月後ろ倒しとなったため、対前年同期の数値に加えて、令和2年3月末現在の数値を併記し、網掛けでお示ししています。なお、右端の男子・女子の欄の下段の数字が令和4年3月末現在の数値で、上段の（ ）内は、令和3年3月末の数値となっております。</p> <p>まず、Aの欄の「求人数」は、合計で5,589人であり、昨年同期の5,570人より19人、率にして0.3%増加しております。その下、Bの欄の「就職希望者数」は、合計で2,579人であり、昨年同期の2,867人より288人、率にして10.0%の減少となっております。</p> <p>求人数を就職希望者数で割った、いわゆる「求人倍率」は、Cの欄にありますように2.17倍となりました。こうした状況の下、Dの欄「就職内定者数」は、合計で2,575人、Fの欄「就職内定率」は、合計で99.8%となり、9年連続で99%台の高水準となっております。少し上に戻っていただくこととなりますが、Eの欄の「未内定者数」については4人となり、昨年同期の16人から12人減少しております。未内定者に対しては、引き続き、各公共職業安定所や山口しごとセンターなどの関係機関との連携を図りながら、就職の相談や斡旋等に努めてまいりたいと考えております。さらに、Gの欄にあります「県内就職内定比率」については、令和4年度末までに85%以上とするという目標を掲げて諸施策に取り組んでいるところですが、令和3年度は84.3%となり、前年同期に比べ1.2ポイントの増加となっております。昨年度も、コロナ禍にあって、高校生を取り巻く就職環境が厳しくなることを懸念しておりましたが、過去10年を見ると、求人数は4番目、求人倍率は2番目に高い数値となりました。</p> <p>24ページを御覧ください。「令和4年度やまぐちの活力を支える高校生就職支援事業」についてです。コロナ禍が続く中で、就職を希望する生徒が不安を抱くことなく就職活動に取り組むことができるよう、本事業に取り組むこととしております。その概要について、簡単に説明いたします。1の「県内就職ガイダンス等充実事業」では、地域産業魅力発見セミナーと地域産業就職ガイダンスを引き続き実施することとしており、昨年度整備された1人1台端末などのICT環境も活用しながら、実施することとしております。2の「県内就職サポーター等配置事業」におきましては、3つ目の○の県内就職促進統括マネージャーを中心として、県内企業情報の分析と県内広域マッチングを、組織的に行うこととしております。3の「県内企業就職セミナー事業」は、県内企業・県内就職の魅力やよさを生徒・保護者に伝え</p>

	<p>る取組です。その中で、県内企業就職説明会については、昨年度に引き続き動画による企業情報の配信を行うとともに、実施方法につきましては、山口労働局等関係機関と協議の上、決定することとしております。4の「県内企業訪問推進事業」においては、求人開拓や応募前職場見学はもとより、職場定着指導等のための教員等の企業訪問を実施することとしております。5の「県内就職促進協議会」につきましては、現在、マスクの着用や飛沫防止の亚克力板等を設置し、午前と午後の二部制の導入により参加人数を制限するなど、新型コロナウイルス感染症防止のための措置を講じた上で、対面式で実施しているところです。これら以外にも、平成29年度から立ち上げております「高校生県内就職促進プロジェクトチーム」において、他部局と連携し、高校生の県内就職の総合的かつ一体的な促進に努めてまいります。このような様々な事業展開も行う中で、今年度も引き続き、就職を希望する全ての生徒の進路実現及び高校生の県内就職に向けた取組を、学校・関係機関と連携しながら積極的に推進してまいりたいと考えております。以上で、報告を終わります。</p>
教 育 長	<p>ただいま高校教育課から報告事項3、報告事項4について説明がございましたが、意見、質問はありますか。</p>
和 泉 委 員	<p>求人倍率が2倍くらいで、内定率が99.8%と非常によく、希望する所に高校生が就職できているんじゃないかのご報告いただきました。就職希望者数自体は去年よりマイナス300人くらい、今年が2,579人、去年が2,867人と10%マイナスになっておりますが、これは卒業生の数が減っている自然減というかそういった感じなんですか。</p>
高校教育課長	<p>就職希望者数が減少している事につきましては、今、和泉委員が言われました通り、卒業生数とその前年度と比べまして230人減少している状況がございます。その事が最も大きな要因ととらえております。</p>
和 泉 委 員	<p>ポイントでいうとどれくらいになるのでしょうか。</p>
高校教育課長	<p>ポイントでいうと、約2.1%です。</p>
教 育 長	<p>卒業生数に占める就職希望者数のパーセントが、去年が30%くらいだった、それが30%より少し1ポイントくらい下がったように見えると思うがいかがでしょうか。</p>
高校教育課長	<p>公立学校で申しますと、令和3年3月末の就職希望者の比率が29.7%であり、令和4年3月末は28.0%になりました。若干減少している状況にあります。</p>
教 育 長	<p>大体30%だったのが減ってきて、進学をする生徒が少し増えているのは間違いないですね。生徒数の減少に加えて、進学を希望する生徒の割合も若干高くなっていると思います。</p>

教 育 長	<p>それでは、報告事項3、報告事項4については、以上のとおりとします。</p> <p>それでは、協議事項に入りたいと思います。</p> <p>協議事項1について、高校教育課から説明をお願いします。</p>
高校教育課長	<p>「県立高校の再編整備」について、御説明いたします。お手元の資料、25ページをお開きください。岩国高校広瀬分校、防府高校佐波分校及び山口高校徳佐分校の生徒募集の停止について、御協議をお願いしたいと考えています。一番上の「県立高校の再編整備」という枠をご覧ください。</p> <p>令和2年12月に策定した「県立高校再編整備計画」令和3年度から令和6年度実施計画において、先ほど申しました3分校については、「今後の入学者数の見込みを踏まえ、生徒募集の停止を検討」と示しています。この3分校について、現状等を御説明しますので、26ページをお開きください。</p> <p>1の(1)在籍状況を見ると、3分校ともに、各年度の在籍者数が入学定員を満たしていない状況です。(2)の地元中学校からの進学状況を見ると、直近3か年では、入学者が5人以下となっています。(3)の地元中学生の動向を見ると、市街地の高校等へ多く進学していることがわかります。</p> <p>次に、「2今後の見込み」についてです。地元中学校の卒業者数については、年度によって増減はあるものの、減少傾向であることが見て取れます。今後の入学者数については、直近6か年の入学実績から、各校の入学者数の見込みを算出しており、3分校ともに今後10年間で、定員の二分の一を満たすことが見込まれない状況です。このため、令和5年度入学者選抜から生徒募集を停止することとしたいと考えています。</p> <p>説明は以上ですが、岩国高校広瀬分校、防府高校佐波分校、山口高校徳佐分校の令和5年度入学者選抜からの募集停止について、御協議をよろしくをお願いします。</p>
教 育 長	<p>ただいま高校教育課から協議事項1について説明がありましたが、意見、質問はありますか。</p>
佐 野 委 員	<p>第3期の県立高校の将来構想で、これからの高校生の卒業生の動きとか、そういった事を御説明いただいていたので、再編計画の趣旨自体は分かりますし、規模を確保したいこと、教育の質を上げていきたいというのも分かるんですけども、ここのデータから見ると3分校ともに地元中学以外の入学者が非常に多いという事と、入学者数ですけれども多分地元の卒業者数があまり多くなくても、それ程劇的に低下しないという点も感じます。多分これらの分校を必要として、望んで外から入ってきたお子さんが多いからだと思うんですけども、こういった分校がなくなった時にどういう気持ちで入ってきたかっていう、そういうのを受けとめられる場所があるのかなっていうのが少し心配な事です。これは山口では多部制高校とか、徳佐分校とか、佐波分校とか、岩国だったら岩国商業の東分校とか、周防大島高校とかありますけれども、そういった所がもしかしたら受け皿になる</p>

	<p>ような人が志望してるんじゃないかなっていう感じもするんですけども、再編するのであれば受け皿の方も整備拡充を加味していかないと行き場がなくなってしまうんじゃないかなって心配はあります。それと今後の高校の魅力化という形で報道なんかで北海道の高校とか、そういった再編ではなくて、物理的な再編ではなくて、そういった効果を上げている、成果を上げている所も少しずつ見えてきているような感じはするので、そういった所も整備、拡張の方に加味してもらいたいなという感じもしております。その辺り再編計画自体はしょうがないと思うんですけども、それをちゃんとフォローする部分をしっかりやってもらいたいなという所があります。以上です。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>今、佐野委員から御指摘がありました、受け皿的な部分につきましては、まず各分校で行われております個に応じたきめ細かな教育活動につきましては、分校以外の学校におきましても、全ての学校において少人数授業の授業展開など個に応じたきめ細かな授業展開というところは行っているところであり、対応できると考えています。それから、募集の入学定員においては山口、防府あるいは岩国辺りの学校につきましては、配慮しながら今後、対応してまいりたいと思います。それと各学校における魅力づくりにつきましても各学校で創意工夫をしながら現在進めておりまして、今年度のスクール・ミッションや来年度のスクール・ポリシーなどを各学校で検討していく中で学校の魅力づくり、特色づくりが更に進めていかれるものと考えております。</p>
<p>佐野委員</p>	<p>ありがとうございます。今、この分校とか気にかけているお子さんや保護者さんが、どういう思いを持ってそこを選んだのかということも貴重な情報だと思うので、もしよろしければ、どのような高校が求められてるかということも考える材料にして頂けるようにしていただけると嬉しいです、よろしくお願いします。</p>
<p>和泉委員</p>	<p>募集停止については大変残念ではありますが、致し方ないことだと思います。質問なのですが25ページの現状に「定員の2分の1を満たすことが見込まれない状況」ということが書かれていると思うのですが、全体像を把握していないのですが、県内にいくつか分校がまだあると思うのですが、今回この3つが募集停止の対象というのは基準として2分の1を満たすことができない状況がかなり難しいからという理解でよろしいでしょうか。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>まず、その定員の2分の1が見込まれないということにつきましては、昨年度3月に将来構想を示しておりますけれどもその前段階の第2期の将来構想の中に、2分の1が見込まれない場合には募集停止を検討するという文言があるということでございます。状況を検討しながら令和2年12月にこの3分校について令和3年から6年間の募集停止を計画し、今回、令和5年度以降の募集停止を検討するに至ったこととなります。</p>
<p>和泉委員</p>	<p>今回の募集停止は令和2年12月に元々計画が出ていたという事ですよね。</p>

教 育 長	そういうことです。
小 崎 委 員	広瀬分校と佐波分校が、今年度入学者数が増えているのですが、原因はつかめているのでしょうか。
高校教育課長	卒業者数を見ていただくと分かるように、地元卒業者数が増加している背景があつて若干増えるという予想はしていました。それに加えて各学校の生徒の頑張っているところの広報や、地域と連携していく教育活動の結果として、こういうふうな数として現れたのではないかと思っています。
小 崎 委 員	広瀬分校さんが前、テレビで子供達がカヌーをされているという事で、良い体験だなと思って、そういうのもテレビで取り上げられて素敵な学校だなと思ったのですが、先ほど佐野委員も言われたように、生徒さんや保護者の方がどういう想いで学校に希望したのかという意見を大切に、そういう行事があるならなるべく残していただけたらなと思います。
高校教育課長	生徒と保護者の状況につきましては学校長を通じて情報収集について努めてまいりたいと思います。各学校で行われています行事においては、可能な限りということになりますが、広瀬分校の取組のうち、坂上分校に継承できるものがあれば継承していくですとか、徳佐分校のリンゴ農園と連携した取組などにつきましても可能な範囲でインターシップ等をやっていたらと思います。佐波分校では、和紙を活用した取組ですとか、小中高が連携したインスタグラムを使った情報発信などにも取り組んでおります。そういった活動等も可能なところで他の学校に引き継いでいきたいと思っています。
教 育 長	それでは、協議事項1については、以上のとおりとします。 続いて、協議事項2について、特別支援教育推進室から説明をお願いします。
特別支援教育 推 進 室 長	山口県教育支援委員会委員の任命について、御協議をお願いします。右上に資料①とあります、議案書の28ページからになります。まず、山口県教育支援委員会につきまして、30ページ、別紙2をご覧ください。ここにお示ししております規則の第2条、にありますように、山口県教育支援委員会は、就学する児童生徒について、特別支援学校の対象になるかどうかの判断、であったり、障害の種類及び程度の判定が困難であったりする場合に、県立特別支援学校や市町教育委員会からの依頼に基づいて調査、審議を行う県教委の附属機関です。また、この委員会の委員は、第3条第2項の規定により、教育委員会が任命をすることとなっております。そして、委員の任期は、第4条の規定により、2年間となっております。今年度が委員の改選に当たりますことから、お諮りをするものです。それでは委員候補者についてご説明します。29ページ、別紙1をご覧ください。 委員候補者は、いずれも障害のある児童生徒の就学相談の経験を有

<p>教 育 長</p>	<p>する、福祉分野での学識経験者、医療分野での専門医、教育関係者 で、再任が13名、新任が2名の15名であります。このうち、太 枠でお示しをしております、新任委員2名については、交替の理由とし ましては、3番の空田候補は、前任の田中氏の御辞退によるものでござ います。次に、12番の山縣候補は、山口県国公立幼稚園・こども園 連盟の会長の交替によるものでございます。なお、委員の任期は、令 和4年6月1日から令和6年5月31日までとなります。以上です。 御協議のほど、よろしくお願いいたします。</p> <p>ただいま特別支援教育推進室から協議事項2について説明がありま したが、意見、質問はありますか。</p> <p>それでは、協議事項2については、以上のとおりとします。</p> <p>次に、次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明 をお願いします。</p>
<p>教育政策課長</p>	<p>次回の教育委員会会議は、令和4年6月6日（月） 午後2時を予定しております。よろしくお願いいたします。</p>